

H20, 10, 日

増える狭心症と心筋梗塞

⑥

薬物療法

発作時ニトログリセリン

狭心症と心筋梗塞の薬は、症状を取り除くものと危険因子を持つ人が発症しないようにするものに大別できる。虎の門病院(東京都)循環器センター内科の石綿清雄部長は「治療や予防には生活習慣の改善が大切ですが、薬物療法も重要になります」と言う。

狭心症の発作が起きたときやカテーテル治療などに問題が予想される人には、症状を取り除く薬を使う。

硝酸薬には、心筋に血液を送っている冠動脈を拡張して心臓の負担を減らす作用がある。代表的な薬がニトログリセリンで、発作が起きた時に舌下錠や噴霧薬(口腔内スプレー)として使う。薬の作用で血圧が急に下がって転倒する危険があるので、座るなどして安定した姿勢で使うことが大切。発作予防のための張り薬や内服薬もある。

ベータ遮断薬には、血圧を下げて脈拍数を減少させる働きがあり、心筋が必要とする酸素の量を

減らすことで、狭心症の発作を防ぐ効果がある。

カルシウム拮抗薬は高血圧の治療によく使われている薬で、血圧を下げ、冠動脈を広げる作用がある。冠動脈がけいれんするタイプの狭心症に有効という。

このほか、冠動脈を広げるニコランジルという薬などが用いられている。

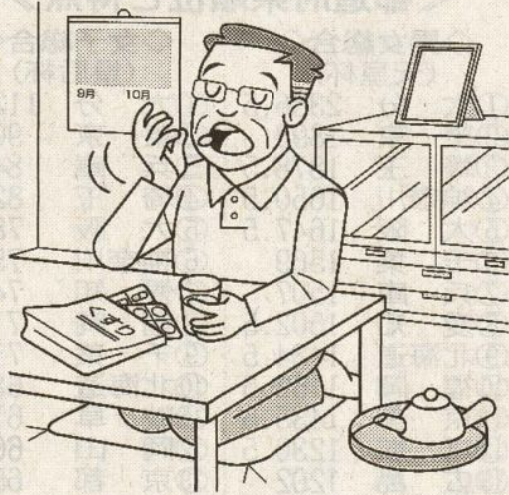
一方、糖尿病や高血圧、脂質異常症など冠動脈硬化の危険因子があれば、狭心症や心筋梗塞にならないよう、それらをコントロールする治療が必要だ。

抗血小板薬は血小板の働きを抑え、血液を固まりにくくして血栓ができるのを防ぐ。アスピリン、クロピドグレルなどが代表的だ。

降圧薬として使われているACE阻害薬、アンジオテンシンII受容体拮抗薬や、脂質異常症の薬であるスタチン系の薬は、動脈硬化の進行を抑える作用も持つ。

石綿部長は「危険因子を持つている人には、狭心症や心筋梗塞の

服薬は治療、予防どちらにも重要



一次予防として早い時期からの治療を勧めます。既に発症してしまった場合には、二次予防としての薬物療法の比重が高くなります。基本的には生活習慣を是正することが極めて重要です。また、カテーテル治療やバイパス手術を受けた後でも、薬による内科治療をおろそかにしてはいけません」と強調している。